

四国村ミウゼウム開村50周年

懐かしき村への招待。

SHIKOKU
MURA
ミウゼム

特集 香川の恵みを包み込んだご当地グルメ「讃岐餃子」。

渡邊雅文インタビュー

本物以上に迫る音が心を動かす。

ヒト×モノ 讃岐デザイン

瀬戸内海のような繊細な美の世界「せと刺織り」。



クライミングジム「MINA.UTARI」
渡利 知弘さん

土庄港から車で8分ほどの場所にあるミナウタリ。クライミングウォールに加え、内装や器具も全て渡利さんが製作した。

クライミングで、島の明日を輝かせる。

香川に住んで
はじめたこと



東京で暮らしていた渡利さん夫妻は、東日本大震災で都市の脆弱性を感じた。家を持つことを検討するタイミングで、地方移住に目を向け始めた。島巡りが好きだった二人は2015年の夏休みに出かけた豊島への旅行中に小豆島に立ち寄った。自然に恵まれていながら、インフラが整い、商店も多い。都会育ちにその規模感は心地よかった。

初上陸から半年で、何を
するかも決まらずにいま移

り住んだが、木工家具や、建築設備工
事の職人としての経歴を知
られると、気取らない人柄も手
伝って、人づてに仕事が舞い込んだ。

転機は2017年の冬。地域の体育
館で行うクライミングの体験会での
「壁」の製作と運営を請け負ったのだ。
クライミングは20歳からの趣味で、仕
事でジムの壁を作った経験もある。体
験会は好評で、夫妻は会期中から
「クライミングジムを作ろう」と決意
した。古い倉庫をセルフリノベーションし、3カ月後にはミナウタリを開
業。島内初のクライミングジムは、島
のあちこちから人が通う場になった。



ジムの横にはオーダー家具を中心とする木工製品の工房もある。

島の文化として根付かせたい。島で暮らす
ガイドが来島した国内外のクライマー
を案内する情景が日常になれば。都会で
培った仕事と趣味の知見を存分に発揮
し、未来図を描いて挑戦を続ける渡利さ
んの姿こそ、島を明るく方向へ動かす大
きなエネルギーだ。

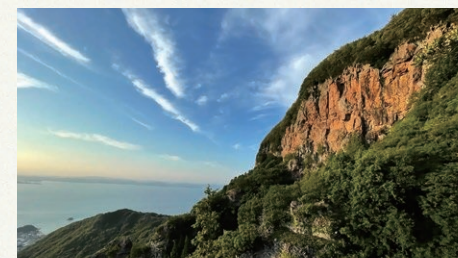


クライミングジム
「MINA.UTARI」経営
渡利 知弘さん

東京都生まれ、神奈川県育ち。
クライミングは、他者ではなく自分
への挑戦であること、国籍や
年齢を問わずコミュニケーション
できることが魅力と感じている。

小豆島には、クライマー憧れの聖地も
ある。2022年に公開された日本屈指
のスケールを誇る岩壁「赤嶽」だ。渡利さ
んは、一般社団法人小豆島クライミング
協会の理事に名を連ね、イベント開催や
環境整備などを通じて、島内でのクライ
ミングの普及に奔走している。

「アウトドア・アクティビティを

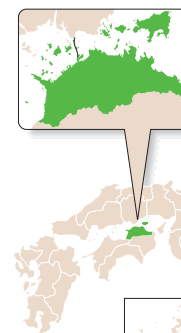


土庄町大部にある高さ約50m、幅約300mの
赤嶽の岩壁。クライミングエリアとしての公開
には、地権者や行政との調整も必要で、地元
に住む渡利さんの存在が欠かせなかった。



写真：株式会社Sunborn提供

小豆島クライミング
協会がプロデュース
する「瀬戸内JAM」
は、クライミングや防
災キャンプなど、自然
の中での遊びを楽し
む体験型イベント。
毎秋開催されている。



美は暮らしから生まれる。

江戸時代から大正時代に建てられた住宅や作業小屋、歌舞伎舞台、しょうゆ蔵など。四国各地に残されていた古き暮らしの痕跡を移築・復原した建造物博物館が「四国村ミュージアム」である。今では目にすることが少なくなった、かやぶきの屋根。土間、囲炉裏、梁、民具の一つ一つに、100年、200年の歴史が宿っている。郷愁と共に感じるのは、自然と調和する秩序と美。それは暮らしから生まれた美しさである。開村から半世紀の時間を重ねた野外博物館で、過去からの贈り物を楽しみたい。

流政之による芸術作品としての「^{そめ}染が滝」。流れ落ちる水の音が村に響く。

もあり、アートとの出合いが村のもう一つの魅力である。

創設者はカトリックの創業者・加藤達雄。美術品を収集するよりも、先人の汗と手あかのしみ込んだ民家を残すことの方がよほど大切ではないのか、との思いから四国村開設の構想に至り、開設前から民家の収集を始めていたという。

起伏があり、敷地以上に広く感じる村内の散策には、スマートフォン音声ガイドアプリ（無料）が便利である。自分の現在地が把握できるだけでなく、位置情報を利用して、自動的に目の前の建物のガイドをしてくれる。特に砂糖作りについてもっと深く知りたいなら、普段は非公開となっている収蔵庫を巡る収蔵庫ツアー（毎月第4土曜日開催。別途、事前予約による催行も可）を利用したい。普段は見られない和三盆糖作りの道具など「用の美」を伝える民具をたっぷり見学できる。10月3日・4日には、50周年を記念したイベントも開催予定。今秋の香川旅は四国村ミュージアムで時間旅行を楽しみたい。

アートが共存する
懐かしき四国の村へ。

四国村ミュージアムは、1976（昭和51）年に開村した野外展示型の建造物博物館である。観光名所として知られる屋島の麓、起伏のある約5万平方メートルの広大な自然の中に、江戸時代から大正時代の建造物が移築されている。四国四県を中心に集められた建造物は33軒。民家のほか、和三盆の原料となるサトウキビの汁を搾っていた砂糖しめ小屋、しょうゆ蔵、灯台および灯台守たちが暮らした退息所などの産業遺産、農村歌舞伎舞台、かずら橋など幅広い。どれも現代では失われつつあるものばかりで、まさに日本の原風景を保存する貴重な空間である。面白いのは、敷地の中に彫刻家・流政之の作品が展示されていること。景観まで計算して設計されており、異なる時代の歴史的建造物と彫刻が融合し、心に残る風景を生み出している。また、安藤忠雄設計のギャラリー





散策の中で 過去に出会う。

屋島の自然の中にある四国村ミュージアムは起伏に富んでいて、村内の散策は想像しているよりも少しだけハード。木々に包まれた道をゆっくり歩いていると、思いがけないタイミングで目の前に現れる風景。その一つ一つに、思いをはせていくのが楽しい。



円形には理由がある。
富木田家砂糖しめ小屋
香川の名産品の一つが和三盆。昔から砂糖作りが盛んであり、サトウキビの汁を搾る「砂糖しめ小屋」は欠かせない場所であった。石臼に取り付けられた腕木を牛が引いて汁を搾るために、円形の建物になっている。



農閑期は土間で楮蒸し。

旧河野家住宅 (国指定重要文化財)

愛媛県の山間部にあった農家。四国は和紙の生産も盛んで、原材料となる楮の皮剥ぎは農閑期の収入源であった。土間に据えられた釜で湯を沸かし、逆さになった大きな木おけを上からかぶせて楮の枝を蒸し、熱いうちに皮を剥いていた。



積雪に耐える堅牢な造り。

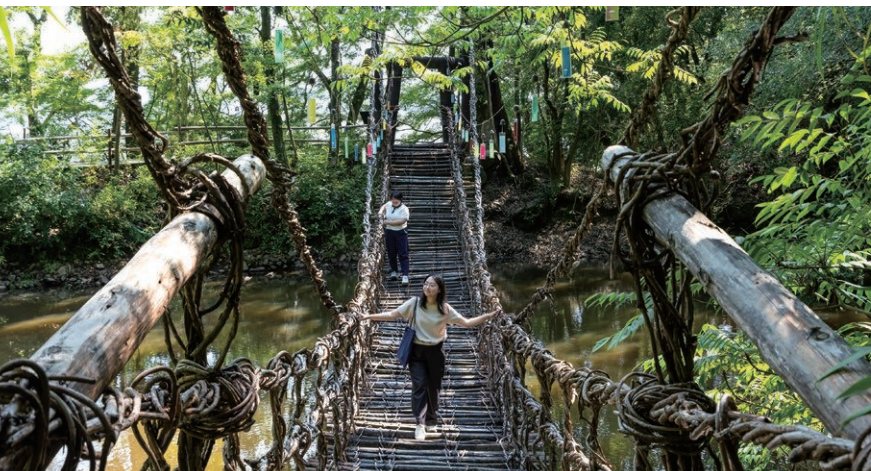
旧下木家住宅 (国指定重要文化財)

剣山の中腹にあった山村農家の住居。この辺りは木を削って器などを作る木地師の集落であった。積雪のある地域で力強く暮らしを支えた堅牢な家屋。その天井には、家を建てる棟梁の棟札が残っており、「安永十年（1781年）」の建築年を確認できる。



この橋の先に何があるのか。かずら橋

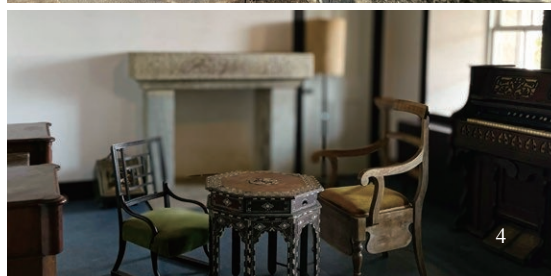
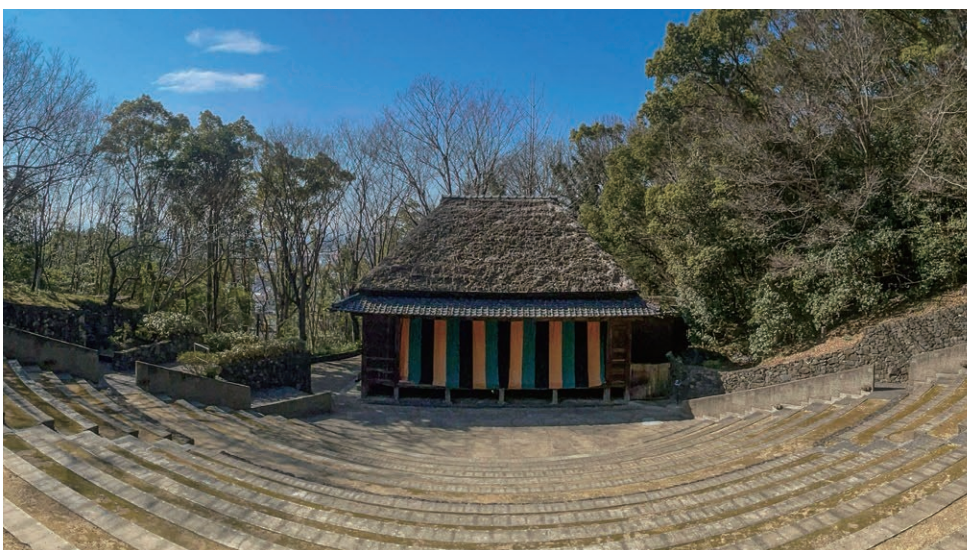
徳島県の山奥、祖谷地方で見られるシラクチカズラのツルを編んで造られた吊り橋「かずら橋」を再現している。12世紀後半の屋島の合戦に敗れた平家の落人が祖谷に隠れ住み、追っ手が来てもすぐ切り落とせるようにかずら橋を造ったという伝説が残る。歩きたびに橋が揺れ、とても手放しでは渡りきれない。これ以上ないくらい素朴な吊り橋が、非日常の空間へと誘う。



ハレの舞台、過去から現在へ。

農村歌舞伎舞台 (高松市指定有形文化財)

江戸時代には、村人が演者となって歌舞伎芝居を行う舞台が全国各地にあった。その一つ、小豆島の歌舞伎舞台を移築。舞台の中央には「廻り舞台」も設置されている。なお、この場所はアーテイスのコンサートやイベントに活用されている。今なお現役の野外劇場である。



明治初期の貴重な西洋建築。

銅島灯台退息所 (国登録有形文化財)

明治政府の下で30基近くの灯台を造った「日本灯台の父」リチャード・ヘンリー・ブランドンが設計した石造りの退息所（灯台職員の宿舎）。間取りは洋風で暖炉も設置されている。浴室やトイレなどは外側に張り出しており、付属の物置も石造りである。

小さくても偉大な明かり。

小久野島灯台

広島県忠海町の沖合に浮かぶ周囲4島の小さな島にあった明治時代の灯台。基礎部分は直径3.8メートルの円形で、灯塔部は高さ5.1メートル。直径3.1メートルの花こう岩の切石積、その上に高さ2.4メートルの鉄製の塔器が乗っている。





たらいで提供される
釜揚げうどんが
郷愁を誘う。

ひととき
時間を超えて。
分け合って食べる
うどんの味。
ざいごうどん 本家わら家

村を巡る前後には、食事やお茶を
楽しむ余裕が欲しい。古民家でう
どんを味わう「わら家」、明治後期
の洋館で入れ立てのコー
ヒーが提供される「四国村
カフェ」。歴史ある建物
に包まれて、時間を
超えたひとときを過
ごすことができる。



日本が憧れた西洋の美意識。
四国村カフェ
明治後期に建てられたコロニアル
様式の洋館。イギリス人の夫妻が建
てた神戸異人館の一つを移築して、
カフェとして利用している。店内の
家具や調度品は、全てビクトリア王
朝時代のものをイギリスから取り
寄せたもの。本物が生み出す重厚な
空間の中で、コーヒーや紅茶、スパ
イシーなグルジアアンティー、マフィ
ンなどを楽しめる。



四国村ミュージアム開村50周年
四国村絵巻
～太鼓と講談の饗宴～
2026年10月3日(土)・4日(日)



50周年を記念して、太鼓芸能集団「鼓童」と
講師「一龍斎貞鏡」を迎えたイベントを開催。
讃岐獅子舞保存会による演舞も行われる。
【問い合わせ】四国村ミュージアム TEL087-843-3111

アートが息づく村。

ダイナミックなシルエットのエントランス
「おやねさん」に迎えられ、流政之らの
作品と共に散策しながら、安藤忠雄が
手がけた四国村ギャラリーへ。四国村ミ
ュゼアムは、自然と暮らし、アートが一体
となった場所である。



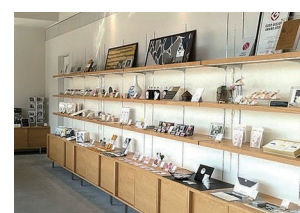
過去と共存する現代の美。 四国村ギャラリー

地中美術館や直島新美術館などを設
計した建築家・安藤忠雄は、香川の
アートシーンに欠かせない人物の一
人。四国村ギャラリーも彼の作品の
一つである。あえて斜面のある場所を
選び、ギャラリーの外に高低差のある
「水景庭園」を配した。流れ落ちる水
の音が心地よく響き、視線の先には
緑の向こうに高松の街が広がる。展
示されている作品と共に、安藤忠雄
が仕掛けた空間の魅力を感じたい。



ここに始まり、ここに帰る。 エントランス棟「おやねさん」

伝統的な切り妻屋根をモチーフにし
つつ、生き物のような有機的なシ
ルエットを描く大きな屋根。古民家
文化と現代建築が融合した「おやね
さん」は、四国村ミュージアムを象徴す
る建物である。エントランス機能の
ほか、1階にはミュージアムショップ、
2階には関連資料を閲覧できるラ
イブラリーがある。村内を巡ったあ
と、ライブラリーで芸術家たちの言
葉に触れると、見てきた風景への解
像度が高くなる。



香川の恵みを包み込んだ
ご当地グルメ

「讃岐餃子」

さぬきぎょう子

讃岐餃子とは、「さぬきの夢」や「はるみずき」といった香川県産小麦を使った皮と、県産の肉や野菜などの食材を用いて作られる餃子のこと。「オリーブ豚」や県産ニンニクをはじめ、「さぬきくらげ」や「さぬき讃レモン」など、それぞれの店が地域色豊かな食材を取り入れ、それぞれの調理法やアレンジでひと味違う餃子を作り上げている。

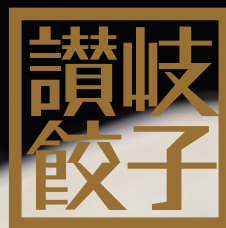
香川県は温暖な気候に恵まれ、実に多種多様な食材の宝庫である。その豊かな恵みを凝縮して味わうことができるのが讃岐餃子の魅力である。

2025年大阪・関西万博（日本国際博覧会）でも香川県の食として紹介され、大好評を得た讃岐餃子。讃岐うどんのように、誰もが知るご当地グルメになる日も近い。

香川県の名物といえば

讃岐うどんや骨付鳥がよく知られている。

そんな香川で近年、新たなご当地グルメとして注目を集めているのが「讃岐餃子」だ。



「讃岐餃子」ロゴは香川県中華料理生活衛生同業組合の登録商標です。



こはく琥珀
琥珀餃子

採れたて新鮮野菜とオリーブ豚がたっぷり詰まったジューシーな羽根つき餃子。



中華料理 桂花
オリーブ豚の讃岐水餃子

オリーブ豚にたっぷりの野菜を合わせた餡。四川ソースに自家製ラー油がアクセント。



中国料理 青山
さぬき餃子

オリーブ豚と、さぬきくらげの粉末をオリジナル配合で仕上げた特製焼き餃子。



中国料理 桃花苑
讃岐餃子

使用する肉はオリーブ夢豚100%。ニンニク不使用でやさしい味付けの焼き餃子。



中国料理 桃妃
讃岐餃子入り野菜スープ

野菜たっぷりのおいしいスープに餃子を入れて、栄養たっぷり。体の芯まで温まる。



廣東料理 中国酒家
オリーブ夢豚入り
特製変わり種餃子

白髪ネギとショウガをのせ、熱い油をかけ香りをつけた。焼き餃子も水餃子もある。



中華料理 彩宴
さぬきの水餃子四川風ソース

自家製の皮にオリーブ豚と野菜の餡。ラー油の効いた四川風のソースが良く合う。



本格中華 ニュー雅園
讃岐餃子

オリーブ豚のうま味を生かしニンニクを使わず野菜も少なめ。「焼き・水・揚げ」で楽しめる。



China 長江 柳迫店
紅油水餃

香川県産の食材を使った餡とさぬきの夢のもちもち食感の皮にこだわった水餃子。



こだわりラーメン あぶらや
讃岐・黒にんにく餃子

自家製法の黒ニンニクを使って仕上げた、味はもちろん栄養も香りも豊かな焼き餃子。



中華 よこはま亭
さぬき水餃子 赤・白

もちもち感を生かしたスープ餃子。辛いスープとあっさりスープの2種類がある。



中国料理 北京本館
瀬戸内レモン餃子

ニンニクやニラを使わず香川県産のブランドレモン「さぬき讃レモン」の果汁やビールの風味が奥深いうま味を引き出す。餃子の世界に爽やかな風を吹かせている。

掲載は一部店舗のみ。参加店舗や提供メニューは変更になる場合があります。

詳細はこちら。「『かがわの食』Happyプロジェクト」HP➡



映像作品にリアルな音を吹き込むフォーリーアーティストとして
最前線で活動する渡邊雅文氏。

アニメ「ブルーロック」、ドラマ「MIU404」などの話題作に携わり、
音で作品の世界観を表現している渡邊氏に、一つの音に込める思いと
地元・香川を拠点に活動続ける理由を伺った。

渡邊雅文インタビュー

MASAFUMI WATANABE

本物以上に
迫る音が
心を動かす。

フォーリーアーティスト
渡邊 雅文

東京で音響関連の会社に就職後、25歳で
帰郷。自ら音響スタジオを構え、日本では
珍しくフォーリーアーティストとして活動を
始める。アニメ「君の膵臓をたべたい」で注目
を集め、多くの話題作を手がけながら株式会
社evanceを設立。以降はevance名義で、
「ブルーロック」や「SAKAMOTO DAYS」
「リコリス・リコイル」など世界的なヒット作
の音づくりを手掛けている。

フォーリーアーティストとは
どんな仕事ですか？

フォーリーアーティストは、映像に合わせて足音や衣
擦れ、物を扱う音などを後から録音する仕事です。以
前の日本では音響効果の一部として扱われていまし
たが、海外では専門職として確立されており、日本で
も分業化が進む中でようやく「フォーリーアーティスト
」という呼び名が定着してきました。私たちが作る
音の多くは、街を歩く足音など日常的な音です。ただ、
現実の音をそのまま録ればいいわけではありません。
マイクで拾った生の音は、映像の中では軽すぎて
視聴者にうまく伝わらないのです。視聴者の意識
を奪わず映像に溶け込みながらも、キャラクター
の体温やその場の空気感を伝える。本物以上に迫
る音を試行錯誤しながら作り出しています。

渡邊さんが音作りで

一番大切にしていることを教えてください。

私はフォーリーアーティストを、音を作る技術者で
はなく、音で芝居をする役者だと思っています。例え
ば、名刺を渡すシーンでも、その人物が人生を懸けた
商談に臨んでいるのか、パーティーで気軽に自己紹介
しているのかによって、手の動きや力の入り方は違っ
ています。映像には映らない感情や背景まで想像し、
そのニュアンスを音に込めることを一番大切にしてい
ます。印象に残っている作品の一つが、飛び込み競
技を描いたアニメ「DIVE!!」です。実際の飛び込み
競技は、水しぶきが少ないほど高得点になります。で
もアニメでは着水は物語のクライマックスとなり、静
かな音のままでは心が動きません。派手なしぶき音は



つけられないが、迫力は出したい。困った
私は、視聴者が本当に求めているものを因
数分解して整理しました。必要なのは水し
ぶきではなく、着水した瞬間の衝撃や感動
ではないか。そこで、水面上の音は最小限
に抑えつつ、水中マイクを使って水の中
で空気が猛烈に巻き込まれる重厚な音を録りま
した。スタジオも私もびしょぬれになる録音で
したが、飛び込みの迫力を表現できたと思っていま
す。音は目立つものではありませんが、映像とびつた
リシンクロすることで作品に感動が生まれます。その
ために、私たちは一つの音に心血を注いでいます。

香川を拠点に活動続ける理由は何でしょうか？

私は一度始めると歯止めがかからないタイプで、ア
クセルだけでブレイキのない人間だと思っています。
最初は東京で音響の仕事をしていたのですが、仕事に
没頭しすぎて心身ともに限界を迎え、全てを捨てて
25歳で香川へ戻りました。それでも東京の仲間が「渡
邊なら遠隔でも任せられる」と仕事を出し続けてくれ

これから挑戦してみたいことはありますか？

たおかげで、気が付けば一流の作品を任されるよう
になり、こうして会社を立ち上げるまでになりました。
正直、東京に戻ろうかという葛藤はありましたが、香
川で活動するメリットに気づきました。優秀なクリエ
イターが数多くいる東京ではなく、香川で「ブルー
ロック」など世界的ヒット作の音を作っていると、「な
ぜ香川で？」という疑問が生まれます。その意外性が
会社の名刺代わりとなって、業界に強い印象を残せて
いるんです。また、香川だから広いスタジオを持つこ
とができますし、何より、香川の穏やかな空気や家族
の存在が、仕事にのめり込みすぎる私のブレイキに
なっています。いい音を作るためには、自分自身が健
全でいられる現在の環境が必要だと考えています。

まずは、中学生の部活動の地域移行に合わせて、ク
リエイティブな仕事を体験できる「クリエイティブ部」
を作りたいです。フォーリーだけでなく、さまざまな
クリエイターと一緒に本物の仕事に触れる機会を作
り、子どもたちにクリエイターという仕事を知ってほ
うことが、次世代の育成につながると信じていま
す。もう一つは、音作りのワークショップによる地域
活性化です。海外で音作りのワークショップをしてい
ると、「あの作品の音をあなたが作ったの？」とたくさ
んの人が押し寄せます。こちらが圧倒されるほどの熱
量なんです。だったら、香川を会場にアニメ作品と連
携して音を付けるイベントを実施すれば、県外や海外
から人を呼び込めると考えています。次世代育成と地
域活性化、地元への恩返しにもつながる二つの夢が、私
の新しいモチベーションになっています。

香川県は古くから繊維産業が盛んな地域として知られている。江戸時代には、「讃岐三白」の一つに数えられた綿の栽培が盛んに行われ、明治時代以降には東かがわ市を中心に手袋産業が発展した。長い歴史の中で培われたものづくりの文化は、刺しゅう産業にも受け継がれてきた。そうした技を引き継ぐ企業の一つが高松市六条町に本社を置く株式会社オーキッドである。1988(昭和63)年に現在の高松市香南町で創業した同社は、大手メーカーの海外進出により経営危機に直面。しかし、当時としては先駆的にインターネットを活用した営業に取り組み、全国から受注を獲得。刺しゅう製品やオリジナルリストバンドの分野で確固たる地位を築いてきた。

廣瀬さんは、経営が厳しい状況にあった2006年、高校卒業後、香川県内の老舗料亭に就職。鍋磨きの日々を送った。その後、創業者である父の誘いを受けてオーキッドへ入社。当時の刺しゅう業界は価格競争が激しく、海外生産の拡大によって国内企業を取り巻く環境は厳しかった。そうした中で廣瀬さんが考えたのは、刺しゅうだからこそ生み出せる価値を追求することだった。その挑戦か

ら生まれたのが「せと刺しゅう」である。「せと刺しゅう」は、刺しゅうと「昇華転写プリント」を組み合わせた独自技術。まず真っ白なポリエステル糸で刺しゅうを施し、その上から色彩を転写すること、従来の刺しゅうでは難しかった微妙な色彩やグラデーションを表現できるようにした。海のきらめきや空の移ろい、鳥影の陰影や魚鱗の輝きまで、瀬戸内海が見せる繊細な表情を豊かな色彩で再現しながら、刺しゅうならではの立体感や光沢も兼ね備えている。遠くから見れば絵画や写真のようでありながら、近づくとも無数の糸が織りなす緻密な造形に目を奪われる。

ネット注文を中心にあらゆる刺しゅう製品を製造する現場。さまざまなものに、多彩な刺しゅうを施すことができる。



本社1階には「せと刺織り」の作品を集めた「せと刺織り美術館」がある。
開館時間：平日の午前8時30分～午後5時30分
定休日：土・日・祝日

純白の刺しゅうで浮かび上がる立体的なフォルム。これに昇華転写プリントを施し、鮮やかな世界が生まれる。



せと刺しゅうが施されたカードケース。光によってさまざまな表情を見せる刺しゅうの世界は、多島美で知られる瀬戸内海的美しさに重なる。

瀬戸内海のような繊細な美の世界 「せと刺織り」。

株式会社オーキッド 代表取締役社長
刺しゅう × 廣瀬 裕詞

穏やかな海に浮かぶ緑の島々、光によって刻々と表情を変える空と海。

瀬戸内海は、その繊細な美しさによって人々を魅了する。

その風景をまるで絵画のように糸で描き出し、新たなデザインとして表現する刺しゅうがある。

その高度な技術は「せと刺しゅう」と呼ばれ、

その技で生み出されたブランドは「せと刺織り」と名付けられた。

栗林公園内にある「かがわ物産館栗林庵」のオリジナル商品「おいりこたおる」。香川県の伝統菓子「おいり」の愛らしさや、「いりこ」の銀鱗をリアルに表現している。

株式会社オーキッド
代表取締役社長
ひろ せ ゆう じ
廣瀬 裕詞さん

1987年 現在の高松市香川町で誕生。
2006年 高校卒業と同時に老舗料亭に板前として就職。
2008年 株式会社オーキッドに入社。
2025年 代表取締役社長に就任



株式会社オーキッド
香川県高松市六条町1122-3
TEL 087-868-3600
<https://www.orchid.factory-shop.info/index.html>

古くから受け継がれてきた香川のものづくり文化と、磨き続けてきた職人たちの技から生まれた「せと刺織り」。それは、瀬戸の風景や文化、技術を、製品を媒介して未来へ伝える新しいブランドである。香川で続くその挑戦の一針一針には、この地で培われてきた繊細な美意識とものづくりへの誇りが込められている。

技にもブランドにも「せと」の名を冠したのは、瀬戸内地域に息づくものづくり文化を発信したいという思いからだった。瀬戸内地域には、香川の手袋、岡山県倉敷市のデニム、愛媛県今治市のタオルなど、全国に誇る繊維産業が数多く存在する。オーキッドでは刺しゅうだけで完結するのではなく、縫製などの工程を地域の企業と連携しながら商品化を進めている。

はこの設計が非常に重要だという。オーキッドでは年間50万点に及ぶ製品作りを通して培った経験を生かし、デザインデータを刺しゅうへと変換していく。そこにあるのは単なる製造技術ではない。デザインを糸によって表現する高度な技術であり、まさに「糸によるデザイン」と呼ぶべきものだ。

さき野 秋 No.94 令和8年9月15日発行
企画・発行：香川県立聴覚報課
編集・制作：(株)中国四国博覧堂

開村50周年の四国村。歴史ある建造物とアートが
調和する非日常の空間で、時代をとりながら静かな
余韻を楽しむ。そんな澄んだ空気が流れる香川の
魅力をお届けします。

編集長

【問い合わせ・応募先】
香川県漆芸研究所
〒760-0017 香川県高松市番町一丁目10番39号 TEL087-831-1814

2025年イベント風景

※生産状況により販売品目が変更になる場合があります。

【問い合わせ】香川県県産品振興課TEL087-832-3373

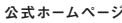


公式ホームページ

「香川県民の日」のロゴマークが決定しました!

最新情報は、香川県民の日公式ホームページをご確認ください。

【問い合わせ】
香川県広聴広報課 TEL087-832-3920



(注)掲載のイベントは、中止または内容に変更が生じることがあります。